

## ユニバーサルデザインの概念

### ユニバーサルデザインとは

#### ■ユニバーサルデザインとは

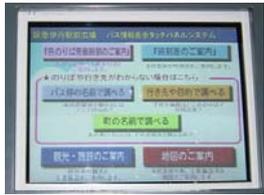
ユニバーサルデザインは障害を持つ米国人建築家、ロナルド・メイスにより 1980 年代に提唱されたもので、高齢者や身体障害者という特定の人に限定せず、また、あらゆる体格、年齢、障害の度合いに関係なく、

「できるだけ多くの人々が利用可能であるように製品、建物、空間等をデザインすること」

と定義されている。更に低コストかつ美しいデザインであることが重要であるとされている。

#### ■ユニバーサルデザインの7つの原則

ノースカロライナ州立大学のユニバーサルデザインセンター(ロナルド・メイスを含むユニバーサルデザインのリーダー達)では、ユニバーサルデザインの「7つの原則」を提唱している。

<p><b>公平性</b></p> <p>誰もが平等に利用できる</p>  <p>←エレベーター、エスカレーター、階段の併設で全ての人が公平に利用可能</p>	<p><b>安全性</b></p> <p>危険がなく、安心して利用できる</p> 
<p><b>柔軟性</b></p> <p>あらゆる人に応じた使い方が選択できる</p>  <p>←使う人の様々な用途に対応できるトイレ</p>	<p><b>省体力</b></p> <p>無理な姿勢をとることなく、楽に利用できる</p>  <p>↑タッチパネル式の情報案内</p>
<p><b>単純性</b></p> <p>使い方が直感的に理解でき、簡単</p>  <p>←使い方がすぐ分かる動く歩道</p>	<p><b>スペース確保</b></p> <p>利用するのに適切な広さと幅がある</p>  <p>↑アクセスしやすい幅広の改札</p>
<p><b>わかりやすさ</b></p> <p>必要な情報が容易に理解できる</p> <p>はっきりとしたサインにより → 位置が分かりやすくなったトイレ</p> 	

■その他のユニバーサルデザインの原則・考え方

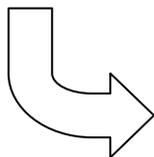
先述した7原則が、ユニバーサルデザインの全てを言い表しているのではなく、以下のように異なる視点からも説明されている。

「よいデザインが満たすべき要件とは、 <u>安全性、アクセシビリティ、使い勝手、価格妥当性、持続可能性、そして審美性</u> 、この6つである。(中略)先に挙げた6つの要件のうち最初の4つが重要となる。価格妥当性とは欲しいときに誰でも手が届くということ。」 (古瀬敏)
「ユニバーサルデザインの考え方は人間工学的ものであり、7つの原則は <u>美しさ</u> を言ってはいない。」 (ジエイク・パウルス)
「7つの原則を満足していても、 <u>環境</u> に負担をかけるものは意味がない。」 (リカルド・ゴメス)
「完璧なユニバーサルはない。しかし他のものより、よりユニバーサルなものはある。 <u>7つの原則のうち5つしか満足しなくても十分な価値はあるし、完璧でなくてもより多くの人が使えることには変わりはない。</u> 」 (モリー・ストーリー)

■社会資本整備におけるユニバーサルデザインの原則

先述した“ユニバーサルデザインの7原則”及び“その他のユニバーサルデザインの原則・考え方”を基に、社会資本整備におけるユニバーサルデザインの原則は以下のとおり整理できる。

<p>【“(一般的な)ユニバーサルデザインの原則・考え方”の要約】</p> <p><u>ユニバーサルデザインの7原則</u>：公平性・柔軟性・単純性・わかりやすさ・安全性・省体力・スペース確保</p> <p>→公平・安全・使いやすいデザイン</p>
<p>【社会資本に求められる要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰もが公平に機会を与えられるという意味で、<u>アクセシ性(近づきやすさ)とモビリティ(移動しやすさ)</u></li> <li>・ 過剰な投資を避ける観点から<u>経済性</u></li> <li>・ 使いたくなる魅力や地域の顔を考慮して<u>美しさ</u></li> <li>・ 社会資本整備において特に関わりの深い<u>環境</u>への配慮</li> </ul>



<p>【社会資本整備におけるユニバーサルデザインの原則】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 公平・安全で使いやすいデザイン</li> <li>◇ 移動しやすく近づきやすいデザイン</li> <li>◇ 経済的なデザイン</li> <li>◇ 持続可能なデザイン</li> <li>◇ 美しくさりげないデザイン</li> </ul>
---

■社会資本整備におけるユニバーサルデザインの実践方法

社会資本整備におけるユニバーサルデザインの実践方法について、“過程”“実現”“継続・普及”の3段階に分けて整理する。

**過程**  
(3. 1)

住民の満足度をより高めるためには、事業の推進過程に以下の考え方を取り込む必要がある。

- ◇住民等のニーズを把握し事業へ反映
- ◇住民が参画し関係者が一層連携して事業を推進

当事者を交えて地域の現状を把握し → (左図)、よりよいものを住民と一緒に検討する(右図)。

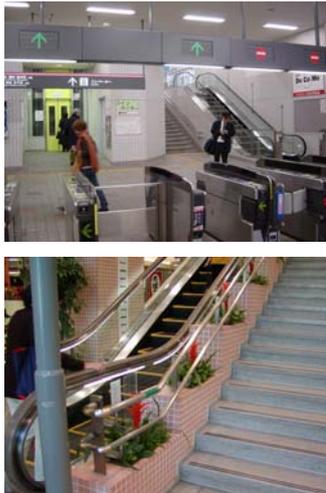


**実現**  
(3. 2)

全ての人々が利用しやすい施設、空間、サービス等とは、以下の原則が実現されるような社会資本整備を行うことである。

- ◇公平・安全で使いやすいデザイン
- ◇移動しやすく近づきやすいデザイン
- ◇経済的なデザイン
- ◇持続可能なデザイン
- ◇美しくさりげないデザイン

(右上図)エレベーター、エスカレーター、階段を併設することで、 → 全ての人々が自由に選択し平等に移動できる。(右下図) 2段手すりにすることで身長の高さに関わらず全ての人々が利用できる。



**継続・普及**  
(3. 3)

よりよいものは一事業の完了で完成するものではなく、よりよいものを追求する取り組みを継続し、同時に広く普及させることで完成する。

- ◇事後評価・フィードバック
- ◇ユニバーサルデザインの普及・啓発活動

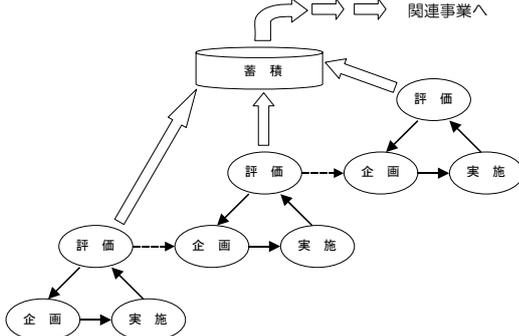
↑

大

使いやすい

↓

小



←各事業のノウハウは当該事業の改善や他事業、関連事業へ活かされることで、ユニバーサルデザインの実現へと繋がる。

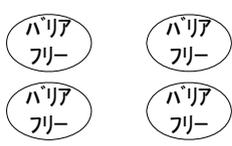
バリアフリーとユニバーサルデザインの違い

■バリアフリーとユニバーサルデザインの違い

	現 況	バリアフリー	ユニバーサルデザイン
考え方	健常な人に合わせた整備	特定の方の障害(バリア)をなくす(フリー)	はじめから全ての人を使いやすくデザインする
対 象	健常者	高齢者、障害者	全ての人
事 例	<p>【普通バス】</p>  <p>段差があるため、車いすの人や足が不自由な人は、乗降が不便である。</p>	<p>【リフト付きバス】</p>  <p>車いすや足の不自由な人のためにリフトを設置した。しかし、特別な機械なので使う人が限定される。</p>	<p>【超低床ノンステップバス】</p>  <p>特別な機械を使わずに段差をなくした。車いすや足の不自由な人だけでなく、全ての乗降が楽になる。</p>

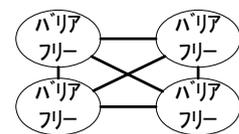
■どのように“バリアフリーからユニバーサルデザイン”になるか

整備が単独かつ個別で行われやすいため出発地から目的地まで連続性が確保されにくい。



個別にバリアフリー整備

利用者の意見を反映し、関係者間の更なる連携を図るプロセスを重視するため、整備の不連続等の問題を未然に防ぐことができる。



バリアフリーのネットワーク整備

特別な対策であるため汎用性が低くなり、結果として過剰な投資とされることがある。



車椅子利用者専用リフト

全ての人を使いやすいため汎用性が高くなり、結果として市場性も高まり、経済的になる。



車椅子が利用可能なエレベーター

特別な対策を行うことで、利用者に対する特別な意識が生まれる可能性があり、結果として利用頻度が低くなることもある。



←垂直移動は特別な装置を利用した介助で行われている

あらゆるニーズに対応可能な選択肢のある整備を行うことで、高齢者、障害者等に対する特別な対策も存在せず利用者に対する特別な意識も生まれない。



←エレベーター、階段、エスカレーターの併設により利用者が自由に選択できる。

→ユニバーサルデザインはバリアフリーの様々な問題を解決することが可能となる。

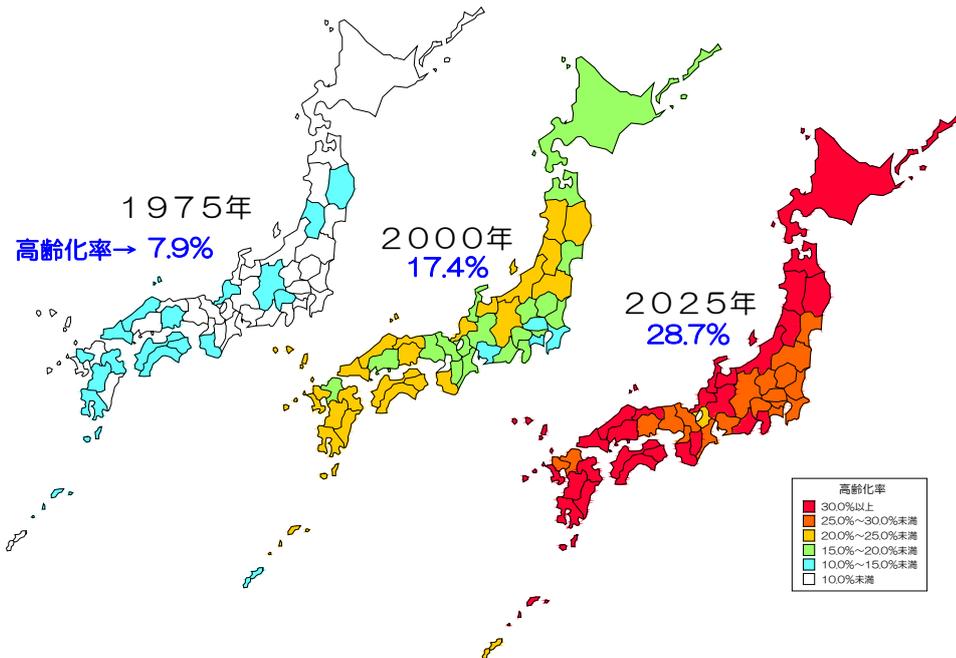
## ユニバーサルデザインの必要性

## ■今後の社会資本整備の視点

今後の社会情勢に適応した社会資本整備の視点で次のとおり整理される。

## 【本格的な高齢化社会の到来】

これから本格的な高齢化社会が到来する。そのため、高齢化社会に対応した社会資本整備を行う必要がある。



## 【バリアフリーの問題】

近年、活発に取り組まれているバリアフリー整備にも以下のような問題点が指摘されている。

- ・ 特別な対策であるため汎用性が低くなり、結果として過剰な投資となることがある。
- ・ 特別な対策を行うことで、利用者に対する特別な意識が生まれる可能性があり、結果として利用頻度が低くなることある。

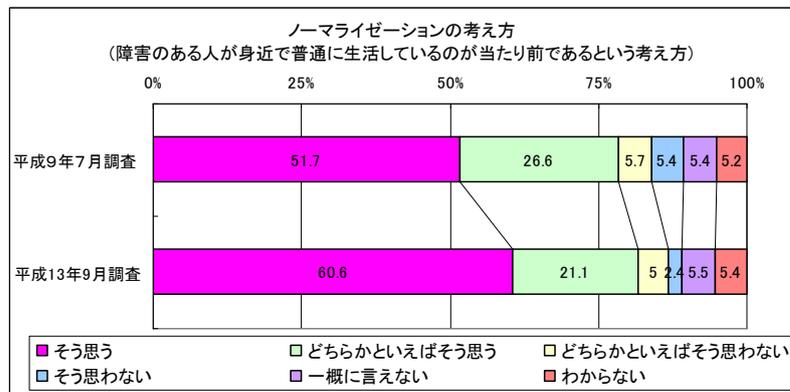
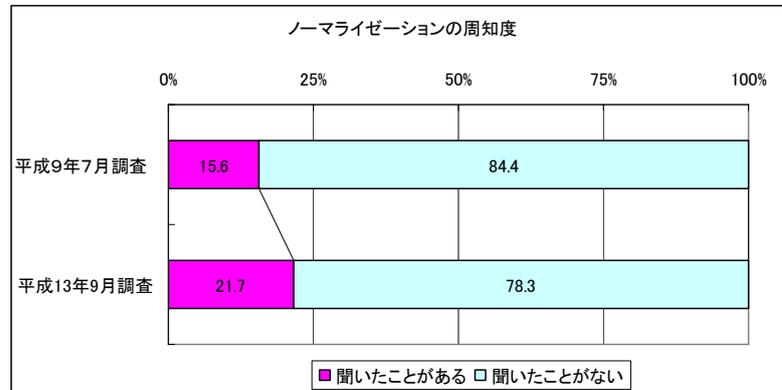


(写真：神戸新聞(03.12.6)より)



## 【ノーマライゼーションの進展】

ノーマライゼーションの考え方が浸透し、障害者にもやさしい環境を整備する必要がある。



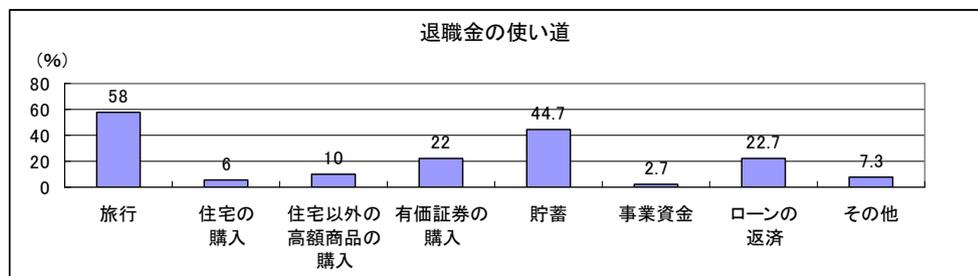
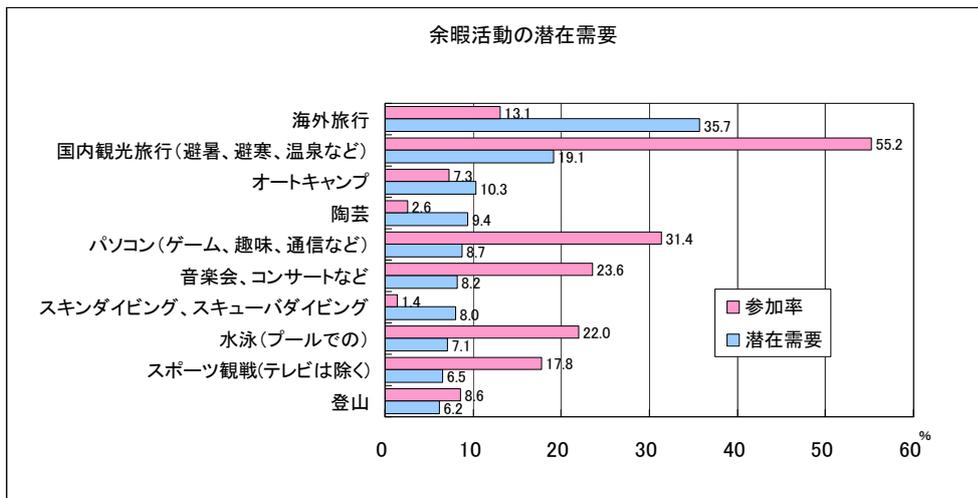
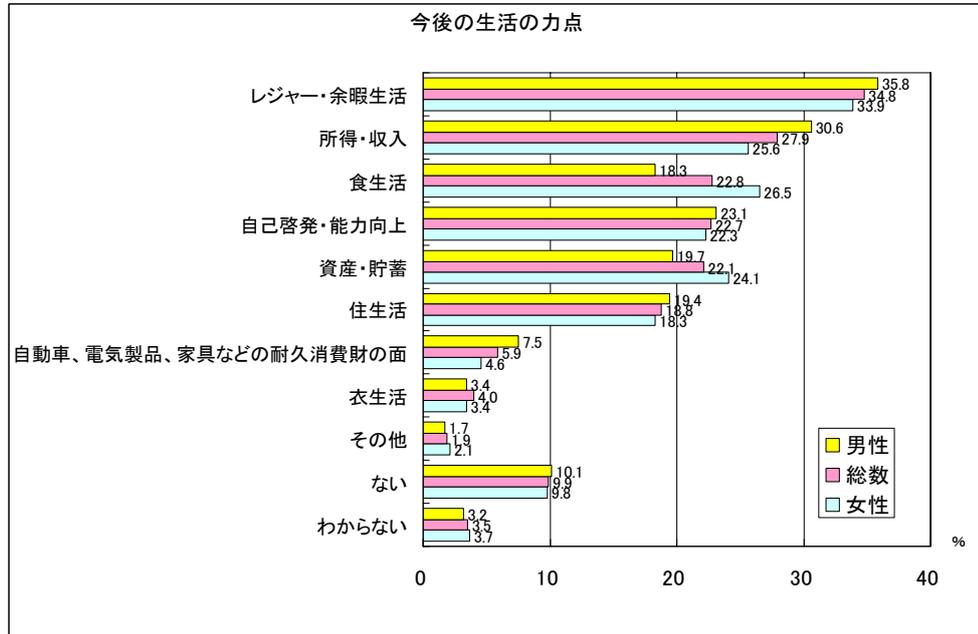
(資料：「障害者に関する世論調査(H13)」(内閣府))

※「ノーマライゼーション」：年齢、性別、体の自由・不自由、知覚・行動能力の違いに関わりなく、平等に生活することが当たり前であるという考え方

## 【今後の社会資本整備の視点①】

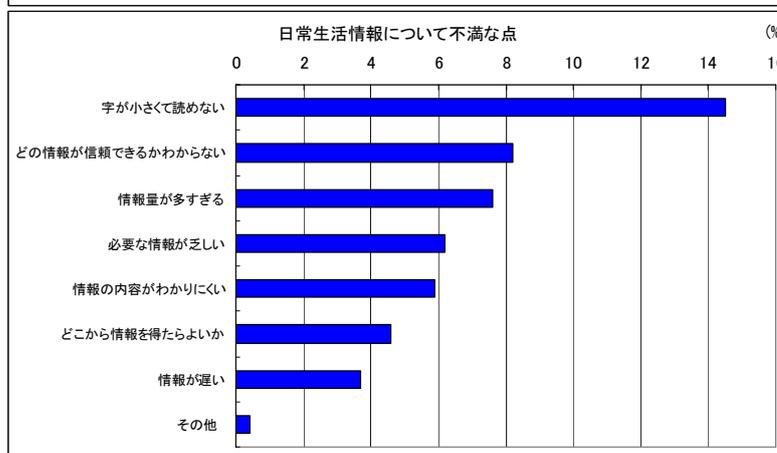
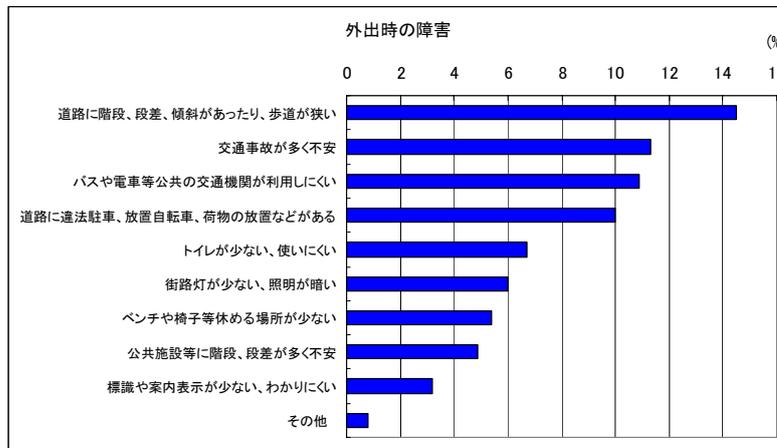
高齢者・障害者と限定するのではなく、**全ての人(高齢者、障害者、外国人、妊産婦、けが人、子供、健常者等)**を対象とした整備を行う必要がある。

【余暇活動の活発化】今後、旅行などの余暇活動に力点がおかれてくるに伴い高齢者の旅行者も年々増加してくる。そのため、高齢者にとっても移動しやすい環境の整備が望まれてくることが予想される。

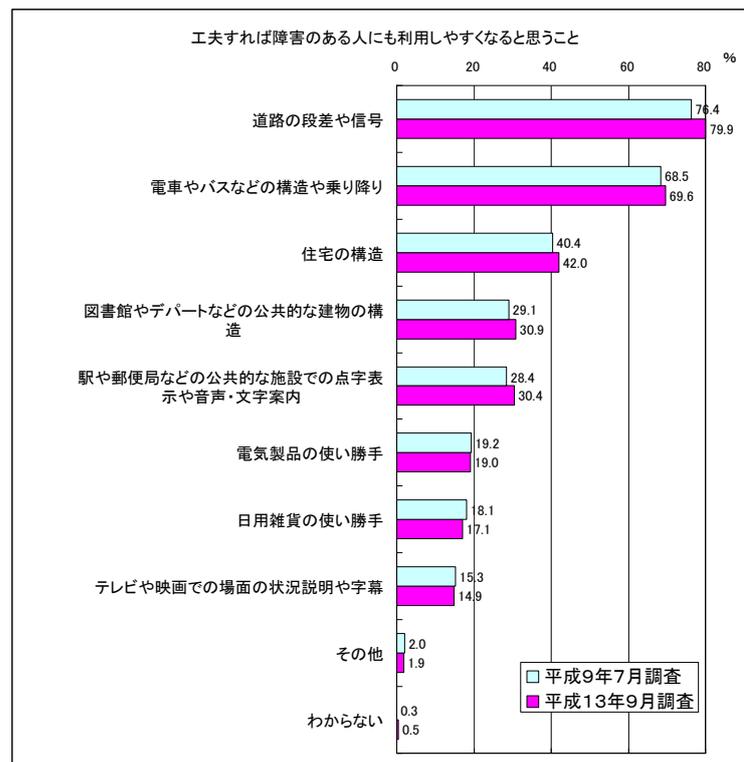


「平成5年から11年までの間の高年世代(60歳代以上)の海外旅行者数の推移を見ると、旅行者数全体では約37%伸びているが、このうち、高年世代では約68%と平均を上回る高い伸びを示している。」(「観光白書(H12)」(国土交通省))

**【高齢者、障害者等のニーズ把握】** 高齢者、障害者等のニーズを的確に把握し、整備へ活かすことがより質の高い社会資本整備へ繋がる。

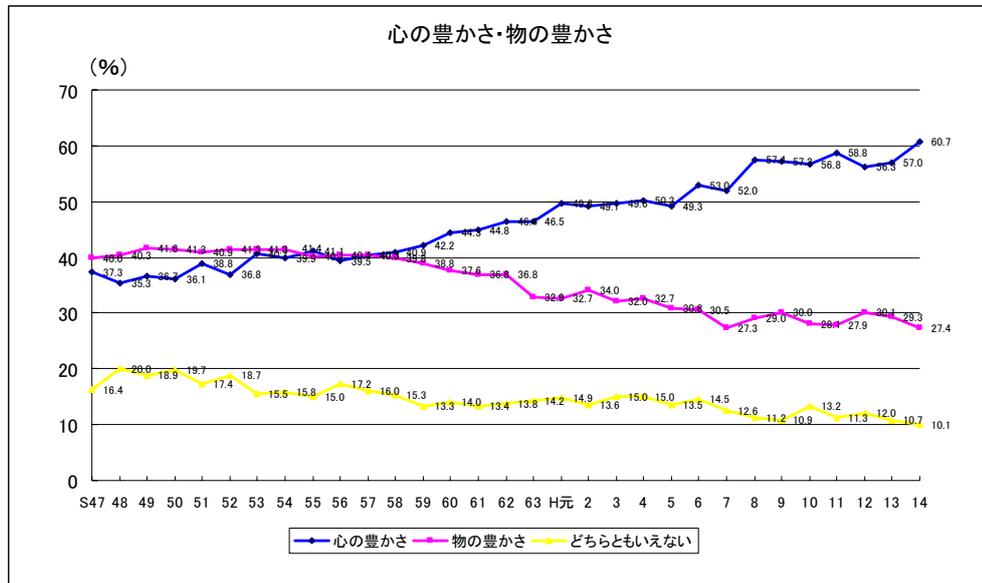


(資料：「高齢者の日常生活に関する意識調査(H10)」(内閣府))



(資料：「障害者に関する世論調査(H13)」(内閣府))

【心の豊かさ】近年は、物の豊かさより心の豊かさやゆとりのある生活が望まれている。



(資料：「国民生活に関する世論調査(H14)」(内閣府))

### 【今後の社会資本整備の視点②】

今後は、物の豊かさにより満足度を高める整備ではなく、**住民の多様なニーズに見合う質の高い整備**を行う必要がある。

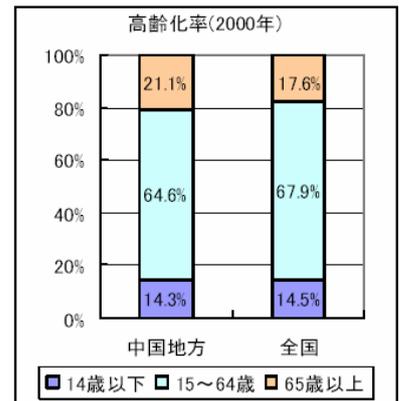
## ■ユニバーサルデザインの必要性

### 【ユニバーサルデザインの実践が基本となる今後の社会資本整備】

今後の社会資本整備では、“物的な豊かさ”から“全ての人(より多くの人)の多様なニーズに対応できる質の高さ”が要求されてくる。そのような中で、ユニバーサルデザインの実践は、今後の社会資本整備の基本となる。

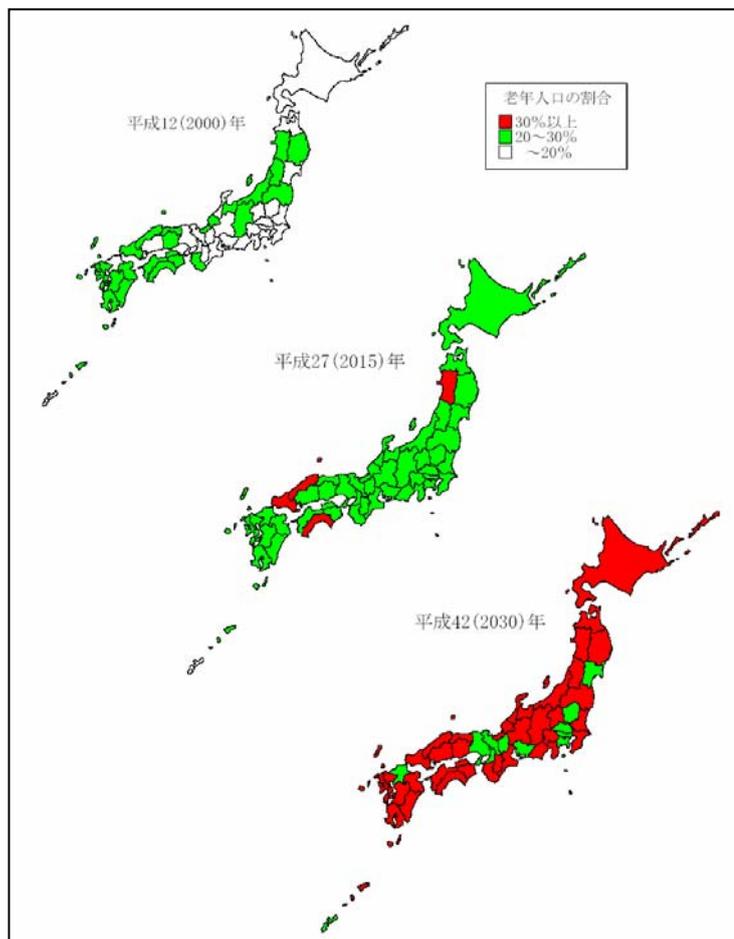
### 【全国に先駆け早急なユニバーサルデザインの実践が必要な中国地方】

平成12年(2000年)時点で、中国地方の高齢化率は全国より3%以上高くなっている(右図参照)。また平成27年(2015年)には山口県、島根県で高齢化率30%以上となり(下図参照)、全国の中で最も早く高齢化を向かえることが予想されている。このような特徴を持つ中国地方では、全国の高齢化の流れに合わせユニバーサルデザインを実践しては、将来の需要に充分に対応できなくなることが予想される。そのため全国に先駆け早急にユニバーサルデザインを実践していく必要がある。



全国及び中国地方の高齢化率(2000年)

資料：国勢調査(H12)



都道府県別老年人口の割合

資料：都道府県の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)

## ユニバーサルデザインのメリット

ユニバーサルデザインを社会資本整備に導入することは、『全ての人にとって快適な環境(移動しやすい、利用しやすい、過ごしやすい等)を整備する』ことに繋がる。その取り組みは以下のメリットをもたらす。

### ■地域特性を反映した豊かな暮らしを実現できる

ユニバーサルデザインの実践で求められる市民参画・協働というプロセスにより、住民のニーズを的確に把握し、事業に反映させることが可能となるため、地域の個性を失うことなく地域にあった質の高い整備を行うことができる。

### ■トータルコストの縮減につながる

はじめから全ての人を使いやすく、暮らしやすい環境をつくることにより、整備後の特別なニーズによる追加的な整備や補修を減らし、トータルコストの縮減に繋がる。

### ■スムーズな合意形成につながる

市民との対話により事業を進めることにより、意見対立が発生した場合、納得のいくまで話し合うことが可能となり、またそれぞれの立場の違いをお互いに理解しあうことが可能となるため、結果的にスムーズな合意形成に繋がる。

### ■高齢者、身体障害者の社会参加が促進され、元気な地域を形成できる

全ての人が移動しやすく利用しやすい環境となることで、高齢者、身体障害者の外出頻度を向上させ、社会参加の促進に繋がり、元気のある地域を形成することができる。

### ■地域間交流を促進し、地域の活性化に繋がる

全ての人が移動しやすく利用しやすい環境は、そこに住む人々の生活環境のみならず、訪問者にとっての快適な環境も向上させるため、地域間交流の促進に繋がり地域の活性化へと発展する。

### ■環境負荷の少ないまちをつくることができる

ユニバーサルデザインが目指す持続可能な整備により、継続的な補修等による環境負荷が軽減できる。

上記メリットに示すように、ユニバーサルデザインは今後の社会資本整備への要求に適切に対応できる取り組みであり、これからの常識となっていく。特に、“高齢社会の早期到来”、“活力低下の著しい中山間地域等への対応”、“山陽、山陰間の地域格差”等の課題を持つ中国地方では、いち早くユニバーサルデザインを実践し、そのメリットを実現することが、早期の課題解決へと繋がる。